

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653037

研究課題名(和文) 欧州逆統合の政治学

研究課題名(英文) The Politics of European Dis-integration.

研究代表者

遠藤 乾 (ENDO, Ken)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：00281775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)： 昨年の単著『統合の終焉』(岩波書店)の刊行に引き続き、今年度は『ヨーロッパ統合史』の増補版を公刊し、統合とは逆向きの解体の研究を加味した形で近年の憲法・ユーロ危機をあとづけ、その意味を思想、政策的に探る作業を別途論文の形で公刊した。とりわけユーロ危機の実証研究を進めるに当たり、不信ゆえに各国分断と統合が同時に進むさまを明らかにしたことは、研究の大きな進展を意味する。

ユーゴやソ連などの連邦解体の議論への比較参照がなかなか進まなかったものの、ユーロ危機に沿った形で逆統合を考察する体系的な著書・論考の執筆を優先したことになった。今後につながる多くの着想を得た。

研究成果の概要(英文)： The research project was highly productive, as it went through its final year. Following the publication of a big tome last year ("The End of Integration," Iwanami), I have edited the new version of "History of European Integration," and published a number of articles, while presenting our arguments on so many occasions. With the case study of Euro crisis, I have clarified the mechanism with which the processes of both integration and disintegration proceed. There are the incentives both to avert anger on the part of assisted member states and to take direct responsibility on the part of assisting states, thereby delegating to Brussels, and at the same time to carefully avoid excessively shouldering the risks, amid the accumulated mistrust.

I intend to make use of this observation when overhauling the next edition of "History of European Integration," which will be the theme of the next large-scale MEXT project.

研究分野：社会科学

キーワード：EU グローバル化 ヨーロッパ 統合 逆統合 欧州 危機 地域主義

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景は3つあった。まず、EUは2005年の仏蘭国民投票による憲法条約批准拒否以来、ユーロ危機の恒常化など、危機的な状況にある。何よりも現場の観察に基づいた現状把握の必要性がある。第2に、計1200頁に及ぶ大著『[原典]ヨーロッパ統合史一史料と解説』(名古屋大学出版会 2008年)・『ヨーロッパ統合史』(通史篇、同)をまとめたが、本研究は、その延長にあり、21世紀のEUの歴史を逆統合の文脈の中で再把握したい。最後に、従来の研究の多くが、ややもすると一方向的に進行する現象として「統合」を捉え、逆向きの現象を十分に理論・政治過程的に検討してこなかったという反省があった。

2. 研究の目的

以下の5つの方向で学術的な目的を追求したいと考えていた。

- 1) 新しいEU研究: 統合とは逆向きの解体の研究を加味することにより、統合と逆統合の双方が交錯するEUのリアルな動態分析が可能となる。
- 2) 21世紀欧州の歴史的理解: 『ヨーロッパ統合史』の最終章は21世紀を扱っているが、その書き方が立体的となり、遡って過去の「統合」過程の解釈にも変化が生じよう。つまり、『ヨーロッパ統合史』の組み換えを狙う。
- 3) 比較連邦解体史の登場: 統合史ならぬ解体史を水平的に比較することにより、政治史理解が豊かになろう。構成国が分離傾向にあるときに働く決定的要因やアクターの特定化に資するのではないかと考えていた。
- 4) 思想的含意: 解体が進むとき、主権が作用している可能性が高い。その実態と応答しながら、思想的に主権概念を見直す。
- 5) 政策提言志向: 地域主義やグローバル・ガバナンスの構築への政策的含意を引き出し、我が国の外交安全保障政策への提言を視野に収めて研究を進める。

3. 研究の方法

以下の3つの方法の組み合わせを念頭に進めた。

- 1) 現状分析: (a) まず危機生成のメカニズムを把握する。(b) 特に政党、団体、メディアに焦点を絞り、憲法条約、ユーロ、シェンゲン危機について調査する。(c) 現地調査を重視し、ヒアリングを積み重ねること。
- 2) 比較連邦解体史の模索: (a) これらの危機を他の類似例と比較する。(b) 特に、ユーゴやソ連の解体の歴史と交錯させて考察する。(c) それにより、アクターや要因の重要性を推し量ること。
- 3) 含意の汲み取り: その延長上で、(a) 主権

概念などへの思想的含意と、(b) 地域・世界的な相互依存のガバナンスに対する政策的含意につき考える。これらの作業により、(c) 将来における大型科研への申請に向け、共同研究態勢作りとインフラ作りに取り組むこと。

4. 研究成果

単著『統合の終焉』を岩波書店から刊行し、さらに『ヨーロッパ統合史』の増補版を公開し、統合とは逆向きの解体の研究を加味した形で近年の憲法・ユーロ危機をあとづけ、その意味を思想、政策的に探る作業を公開した。

他方、ユーゴやソ連などの連邦解体の議論への参照が進まず、それとの関連で欧州逆統合をいまだ捉えられていない。くわえて、論点整理した萌芽的なポジションペーパーの執筆が、体系的な著書の執筆を優先したことにより、遅れた。

しかし、強調しておくべきは、ユーロや憲法危機について、統合とは逆向きの解体の研究を加味した形で本や論文をまとめたことである。これは研究の大きな進展を意味する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. 遠藤乾「統合と分断の同時深化こそ欧州の「新常态」」、中央公論 129 巻 4 号、P.144-151、2014、査読無
2. 遠藤乾「グローバル化 2.0—TPP 賛否両極論を排す」、中央公論 128 巻 3 号、P.72-82、2013、査読無
3. 遠藤乾「ユーロ危機の深層—「対岸の火事」を超えて」、アステイオン 76 号、P.160-182、2012、査読無

[学会発表] (計41件)

1. 遠藤乾「EUの現状と今後—欧州はどこに向かうのか—」、日本アカデミア勉強会(日本生産性本部・東京都)、2015年3月23日
2. 遠藤乾「日韓の和解のために—欧州と東アジアの比較の中から—」、現代日本政治学会(サムソン経済研究院・ソウル特別市・韓国)、2015年3月14日
3. 遠藤乾「コメント」、北海道ダイアログ—東アジア市民社会対話(北海道大学・札幌市)、2015年2月28日~3月1日
4. 遠藤乾「コメント」、EUIJ九州 第4回年次国際会議「危機を越えて—欧州統合の未来—」“After Crisis: What Next for European Integration?”(九州大学西新プラザ・福岡市)、2014年12月7日
5. 遠藤乾「リベラルの安全保障論—安保/9条、抑止/和解、国家/人間—」、科学研究費・基盤研究(B)「ウェストフ

- アリア史観の脱構築」(研究代表者:山下範久) 2014 年度第四回研究会(立命館大学国際関係学部・京都市)、2014 年 11 月 21 日
6. 遠藤乾「TPP のポリテックスグローバル化は管理できるか」、サントリー講演会(サントリー本社・東京都)、2014 年 11 月 17 日
 7. 遠藤乾「EU の規制力ー世界標準のポリテックスと規制協力の可能性」、経団連ヨーロッパ地域委員会企画部会(経団連会館・東京都)、2014 年 11 月 17 日
 8. 遠藤乾「国際関係の平和的変革は可能かー吉野作造に学ぶー」、吉野作造賞受賞記念講演(吉野作造記念館・大崎市)、2014 年 11 月 1 日
 9. 遠藤乾「市民、統合、主権ーEU シティズンシップの問いかけ」、日仏文化講座:ヨーロッパ市民とは何か?ーヨーロッパ統合の現状から考える(日仏会館・東京都)、2014 年 10 月 18 日
 10. 遠藤乾「地政学的変化ー世界ガバナンスの課題に直面する日本とフランス」、日仏文化サミット 変化する世界と日仏関係の未来(日仏会館・東京都)、2014 年 6 月 28 日
 11. 遠藤乾「国内連帯とグローバル化」、サントリー文化財団 震災後の日本に関する研究会公開フォーラムー「災後」の文明(国際文化会館・東京都)、2014 年 5 月 26 日
 12. 遠藤乾「EU 研究の意義と射程ー『統合の終焉』(遠藤乾著)から始めるー」、EUIJ 九州フォーラム(九州大学・福岡市)、2014 年 4 月 12 日
 13. ENDO, Ken, "How to enhance Japan-EU political cooperation: towards the principle to harmonise-up," European People's Party Public Hearing (European Parliament Brussels, Belgium), 2014.1.30
 14. 遠藤乾「中村研一・早川誠・五十嵐元道氏の書評『『統合の終焉ーEU の実像と論理』(岩波書店、2013 年)』へのコメント」、北大政治研究会(北海道大学・札幌市)、2013 年 12 月 19 日
 15. ENDO, Ken, "The Principle of 'Harmonise-Up' in the Era of Competing FTAs ---Towards a new dynamism of Japan-Korean relations," 16th Seoul National University-Hokkaido University Joint Symposium (Seoul National University, Seoul, Korea), 2013.12.13
 16. 遠藤乾「『ハーモナイズアップの原則』を含む医政に関連することについて」、札幌市医師会北区支部医政勉強会(札幌サンプラザホテル・札幌市)、2013 年 11 月 22 日
 17. 遠藤乾「欧州統合と欧州大学院(EUI): アジア地域統合と AUI 構想への示唆」、第 4 回 AUI 研究会(早稲田大学・東京都)、2013 年 11 月 18 日
 18. 遠藤乾「村上真一郎・野田昌吾氏の書評『遠藤乾氏の近著『統合の終焉ーEU の実像と論理』をめぐって』へのコメント」、第 39 回関西政治史研究会(大阪市立大文化交流センター・大阪市)、2013 年 11 月 2 日
 19. 遠藤乾「コメント」、日本国際政治学会 2013 年度研究大会・部会 14「ヨーロッパのアジア・中東をみる眼」(新潟コンベンションセンター・新潟市)、2013 年 10 月 27 日
 20. 遠藤乾「これからの日本の政治はどうあるべきかーグローバル化と安心・安全」、北海道保険医会(札幌東急イン・札幌市)、2013 年 10 月 5 日
 21. 遠藤乾「TPP と地方・農業ー両立は可能かー」北海道菱肥会(ニューオータニイン札幌・札幌市)、2013 年 8 月 28 日
 22. 遠藤乾「TPP と地域社会ー両立は可能かー」、管理職まちづくり特別講座(市町村アカデミー・千葉市)、2013 年 7 月 17 日
 23. 武田健・臼井陽一郎・中村民雄・安藤研一・遠藤乾「『統合の終焉』? EU の含意と将来」、EUIJ 早稲田主催書評討論会(早稲田大学・東京都)、2013 年 6 月 24 日
 24. 遠藤乾「ユーロ危機後の EUー『統合の終焉』を巡って」、松山大学法学部学術講演会(松山大学カルフル・ホール・松山市)、2013 年 6 月 21 日
 25. 遠藤乾「グローバル化 2.0ー北海道農業の生きる道」、日の丸産業社(株)研修会(ホテルモントレ札幌・札幌市)、2013 年 6 月 7 日
 26. 遠藤乾・小川有美・田所昌幸・網谷龍介・細谷雄一「パネリスト」、EUSI 政治研究会「『統合の終焉』をめぐらうラウンドテーブル」(慶応大学三田キャンパス・東京都)、2013 年 5 月 22 日
 27. 清水謙・早川有紀・大庭三枝・遠藤乾「[書評]『統合の終焉ーEU の実像と論理』(岩波書店、2013 年)」書評研究会(東京大学駒場キャンパス・東京都)、2013 年 5 月 22 日
 28. 遠藤乾「コメント: 政権交代検証の日韓比較」、政権交代に関する研究会(東京大学・東京都)、2013 年 3 月 2 日
 29. 遠藤乾「司会・コメント「東アジアにおける市民社会対話」、第 1 回北海道ダイアログ(北海道大学・札幌市)、2013 年 1 月 26 日
 30. 遠藤乾「統合の終焉」、岡山大学西洋政治史研究会(岡山大学・岡山市)、2012 年 12 月 22 日
 31. 遠藤乾「パネリスト: 『世界における EU と日本』」、EUSI 国際シンポジウム「世界における EU と日本」(慶應義塾大学三田キャンパス・東京都)、2012 年 12

- 月 10 日
32. 遠藤乾「EU の規制力—世界標準のポリティクス」、日本 EU 学会第 33 回研究大会共通論題「グローバルアクターとしての EU」(東京大学・東京都)、2012 年 11 月 10 日
 33. 遠藤乾「グローバル化 2.0—災後日本の開き方—」、サントリー文化財団「震災後の日本を考える」研究会(東京会館・東京都)、2012 年 10 月 24 日
 34. 遠藤乾「ユーロ、EU、世界—いったい何の危機なのか—」、日本国際政治学会 2012 年度研究大会(名古屋国際会議場・名古屋市)、2012 年 10 月 10 日
 35. 遠藤乾「コメント: パネル「グローバル化時代のデモクラシーの擁護」、2012 年度日本政治学会研究大会(九州大学伊都新キャンパス・福岡市)、2012 年 10 月 7 日
 36. ENDO, Ken, “Changing Contexts of Japan’s Security --- In search of new agendas,” Chinese Academy of Social Sciences Workshop (Chinese Academy of Social Sciences, Beijing, China), 2012.9.13
 37. ENDO, Ken, “The EU’s Regulatory Power --- The global standardisation strategy of a silent superpower & its implications for Japan,” Workshop on Beyond Lisbon Treaty: Re-examining EU Institutions & Governance (Academia Sinica, Taipei, Taiwan), 2012.9.7
 38. 遠藤乾「コメント: 徐友漁「文化大革命の現代中国政治に対する影響」、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センターワークショップ(北海道大学・札幌市)、2012 年 7 月 22 日
 39. ENDO, Ken, “Comment: Panel ‘Assessing the Eurozone Crisis’,” 22nd IPSA World Congress (Universidad Complutense de Madrid, Madrid, Spain), 2012.7.8
 40. ENDO, Ken, “The Prospects of East Asian Regionalism: Through the looking glass of a oft-distorted image of Europe,” Workshop on A New Asia? Politics, Society and Culture in the 21st Century (University of East Anglia, London, United Kingdom), 2012.6.28-29
 41. ENDO, Ken, “Global Financial Governance after the Eurozone Crisis,” Trilateral Forum Tokyo (The Tokyo Foundation, Tokyo, Japan), 2012.4.16-17

〔図書〕(計 7 件)

1. 遠藤誠治・遠藤乾「なぜいま日本の安全保障なのか」、遠藤誠治・遠藤乾【責任編集】『シリーズ日本の安全保障 1 安全保障とは何か』(岩波書店)、P.1-32、2014
2. 遠藤乾「安全保障論の転回」、遠藤誠治・遠藤乾【責任編集】『シリーズ日本の安

- 全保障 1 安全保障とは何か』(岩波書店)、P.33-66、2014
3. 遠藤乾「ヨーロッパ統合にむけて—起点としての第一次世界大戦」、山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史【編】『現代の起点 第一次世界大戦 4 遺産』(岩波書店)、P.175-199、2014
 4. 遠藤乾『ヨーロッパ統合史 [増補版]』(名古屋大学出版会)、P.1-402、2014
 5. 遠藤乾・佐藤崇子・井口保宏・宮井健志『〔翻訳〕クリスチャン・ヨプケ『軽いシティズンシップ—市民、外国人、リベラリズムのゆくえ』』(岩波書店)、P.1-310、2013
 6. 遠藤乾『統合の終焉—EU の実像と論理』(岩波書店)、P.1-508、2013
 7. 遠藤乾「[コメント 1] 文化大革命の「二重性」について」、徐友漁・鈴木賢・遠藤乾・川島真・石井知章『文化大革命の遺制と闘う 徐友漁と中国のリベラリズム』(社会評論社)、P.56-61、2013

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

遠藤乾研究室

<http://endoken.blog.fc2.com/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

遠藤 乾 (ENDO, Ken)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号 : 00281775

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし